

機械部会土曜例会グループ発表 企業内技術士の将来像について

2007年2月3日(土)

グループ	現状の問題(左右無関係)	今後の課題・解決案(左右無関係)	その他(左右無関係)	キーワード
A	技術士になるメリットがない	企業内の技術者倫理を監視する役割を技術士が担う(公認会計士のような役割)	技術士会として、自分や他人の人間性を向上させる仕事をめざす(不当な労働条件で働かされている技術者の人権擁護など)	技術者倫理監視
		企業内での技術伝承のサポートを技術士が率先して行っていく		技術伝承のサポート
	技術士の社内での地位が低い	技術士が経営に参画できるようにする(MOTのスキルをもつ技術士)		MOT保有技術士
		各々の技術士が企業の中で、自分自身の地位を高めるように努める		各人の社内での努力
		技術士のみが利用できるインターネット上の技術者ネットワークを構築し、技術士の価値を上げる	技術士のみならず、弁護士、会計士などのネットワーク	技術士ネットワーク
	技術士が自分の属する企業内で技術コンサルタントを行っていく			社内技術コンサルタント
B	会社における技術士の認知度が不足している	企業内技術士が、企業の関わる事業において責任のある業務を分担できる仕組みを作る(たとえば技術監査室の設置を提案する)		技術監査室
	技術士会としての社会的PR不足	技術士会が各種工業技術見本市等でPR活動を行う		工業技術見本市
C	認知度が低く、「技術士って何?」という状況。	技術士ネットワークを強化する。	技術士の倫理違反は? 資格剥奪	認知度低ネットワーク
	社内で優遇されていない。	専門的知識を高める「場」がない。	技術士試験では、人格を判定しなくてはならない。	優遇無し
	技術士になってもメリット少ない。	「さすが、技術士」と言われる高い倫理感を持つ。	未来の技術士はコンプライアンスを持たなくてはならない。	高い倫理 コンプライアンス
	身近に、「技術士」がいない。人数が少ない。	会社や社会で、ワンステップ毎に、設計/製造が進む区切りに技術士の承認を必要とする仕組みが必要。	会社定年後も技術的な仕事をしたい。	人数小 社会の仕組み作り
	独占業務がない。	企業内で技術士を認知/向上させる方法やシステムを考える。	技術士はこうありたい 例えば、戦国時代の軍師のように。	独占業務
	技術士になっても、専門的な仕事ができない。	トラブルや欠陥を無くす、仕組み/システムの構築法はどうあるべきかと考える。		仕組み
	技術士でないと出来ないという仕事というのではない。	技術士を含めた「有識者」で会社の意思決定の仕組みを導入してはどうか?		仕組み
	経験や固有技術、固有知識を生かす場がない。	技術士会として取り組む大きなテーマを掲げ、社会に宣伝してはどうか? 例: 技術と安全		社会への宣伝 アピール
	技術士の権威が低い	未来の技術士(技術者)は全て、環境を考えるべき。		権威 環境問題
	二次試験へのモチベーションの継続が困難。	例えば、鑑定業務などは「技術士資格を有すること」とする。(提案)		独占業務
	二次試験へのモチベーションが下がる。	技術士資格を有することで、若くとも意見が通りやすい仕組み		認知 独占業務
	世間で技術トラブルが報告されている。技術者、会社の仕組み、責任はどうなっているのか?	社内の情報交換コミュニケーションを促進する立場でありたい。		コミュニケーション チームワーク
D	使えるエンジニアとしての意識付けが必要	中立である専門性(専門集団)として社会で認められる法制度が必要。		中立 認知
		不公平な審査ではなく、コンセンサスが得られる位置付けとなるよう制度の改革が必要。		位置付け
		会計の監査役に相当する、技術の監査役として位置づける。		位置付け
		社会的に信頼感を得ること		信頼感
		技術者のポジションを明確にしたい		位置付け
	魅力あるエンジニアとしての意識付けが必要	企業内で評価の高め方を考える必要がある。		評価
		研究者ではなく、技術者としての立場を明確にす		位置付け
		中小企業の手助け		役割
	JABEE強化		JABEE	
	APECエンジニアの強化		APEC	
	名称独占、業務独占の強化		独占業務	
E	技術士の地位が社会的に広く認知されていない(除く建設・水道)	技術士は単なる資格ではなくいかに社会貢献できるかが問われている	政治家技術士を通じて法整備を行う	技術士関連法整備
	技術士の資格が自己啓発のもののみになっている場合がある	企業内技術士を助けるシステムを作るべきである	建設業並に他の製造業でも主任技術士登録を義務付けする	技術士関連法整備
	企業内に技術士の処遇制度がない	修習技術者の組織化と入りたくなるシステムを作る	企業内技術士は技術関係の当該企業窓口となりうる	技術士重用法整備
	業種により事情が千差万別なのでやりようがない		企業ごとの技術士を組織化するよう技術士会から運動する	企業内技術士の組織化

F	技術士になるメリットが少ない(特に機械は)会社としての取得Back Upはない	関係省庁(文科省だけでなく経産省をはじめとする各省庁)との資格システムの共有構築又は統一化(要レベル合わせ)、国の資格取得動機付け	業務独占資格とする。企業内技術管理職の要件とする。資格手当	業務独占 ポジション優遇
	技術士の認知度が低い	大学側での教育強化における認知度向上	JABEEの普及経由(一次試験免除)の二次試験	JABEE
		企業にける認知度向上上司が率先して資格取得するシステム	技術士と企業内技術者との交流機会を増やす。合格者の早期合格者の増大を図る	企業内技術者との交流
	技術士の更なるレベルアップ	技術士の更なる研鑽	技術士の上位資格(とりあえず、現行の技術士は全てスーパー技術士、経験年数の少ない(例;JABEEからの合格者)者は技術士とし、次の試験制度を作る。	スーパー技術士
	会員数を増やす必要がある	技術士取得後は入会を必須とする	技術士同士のW/Wの関係(格安の勉強会)	CPD
		入会のメリットを多くする	型技術者なるのに適している	
		次の備えとして技術士を取得するケース	独立技術士	
G	何故、企業内技術士を増やそうとするのか?	社会的認知度を上げる		認知
	技術士になるまで勉強し、そこで得られる能力や知識も重要。	科学技術、創造立国を推進する大役がある。		役割
		国際的な技術交流やイベントを行い活性化へ。		交流 コミュニケーション
		国が技術の重要性を一般人にアピールしている要領で、技術士についてもアピールする。		社会への宣伝 アピール
		大きなトラブルや事故対策へ参画し、その行為を公開する。		役割
		自分自身が倫理感をもつ。		倫理
		技術者の鑑(かがみ)となる技術士となる。		先導
		強いトップダウンの表明(倫理強化) 技術士資格の取得奨励		役割 位置付け
		社内技術士会を作る		コミュニケーション 技術士会
		細分化された技術士分野を改革する。		分野別の組織 仕組み
		「インディペンデント・コントラクター」という業種を行うための前提条件の一つとして技術士資格を必要とする制度が必要。	【インディペンデント・コントラクター】 高度な専門性を備え、業務単位の請負契約の企業と結んで活動する「法人化した個人」及び、「個人事業主」の事。「雇われない、雇われない」フリーエージェントとしてのビジネスマンの新しいワークスタイルとして注目を集めている。(記:國井)	独占業務
		技術出身、技術士出身の議員を選出する。		議員 アピール
		社内的認知度を上げる		認知
		技術士会の強化		技術士会
	JABEE認定者が意欲的に挑戦できる仕組みを作る		JABEE	
	専門技術の基礎となるような位置付けとすべき。		位置付け	
	業界で技術士の集団を作る。		コミュニケーション 技術士会 チームワーク	
	問題解決集団の形成。個人へ直接相談ではなく、グループで解決を図る。		コミュニケーション チームワーク	
	各種資格取得制度に関して、技術士のインセンティブを与える。		インセンティブ	
H	技術士になるまで勉強し、そこで得られる能力や知識も重要。	技術士出身の議員選出		技術士出身の議員
	何故、企業内技術士を増やそうとするのか?	社内技術士会を作る		社内技術士会
		技術士専門資格を細分化から変える		技術士資格細分化
		「インディペンデント・コントラクター」という業種を行うための前提条件の一つとして技術士資格とする。制度		インディペンデント・コントラクター
		各種資格制度の技術士のインセンティブを与える		インセンティブ
		問題解決集団の形成。個人へ直接相談ではなく、グループで解決を図る。		問題解決集団
		JABEE認定者が意欲的に挑戦できる仕組みを作る		JABEE
		社内認知度を上げる		社内認知度
		専門技術の基礎となるような位置付けとすべき		
		業界で技術士の集団を作る。		
		技術士独立の強化		
		会社がメリットを用意すべき		
		技術士地方在住の人のインセンティブが希薄		
		自分自身が倫理感をもつ。		
		技術士一人ひとりの倫理観のある行動、ライフスタイルの提示		
		技術者の鑑(かがみ)となる技術士となる。		
		強いトップダウンの表明(倫理強化) 技術士資格の取得奨励		トップダウンによる取得奨励
科学技術創造立国推進	社会的認知度を上げる			
	国際的な技術交流やイベントを行い活性化へ。		イベント	
	国が技術の重要性を一般人にアピールしている要領で、技術士についてもアピールする。			
	大きなトラブルや事故対策へ参画し、その行為を公開する。			